



▲志藤理事長による基調講演

放課後等デイサービス「にじ」の報告▶

2025年11月30日(日)、2025年度実践交流集会をいこいの村を会場に開催しました。本集会は、法人理念である「すべての人々の完全参加と平等」の実現を目指し、福祉実践の専門性を高め合うことを目的に行っています。法人職員が一カ所に集まったのは、2019年度の同集会ぶりです。今回も、北から南までの各事業所から寄せられた実践や課題などの報告をもとに、124名の職員が学び合いました。

➡5ページ関連記事



▶入職歴も職位も越えてフラットな関係で討議!

INDEX

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------------|
| P2 耳のことフェスタ (京都府聴覚言語障害センター) | P5 法人理念のさらなる追求に向けて/後援会だより (法人事業本部) |
| P3 「にじ」~定員が増えました! (京都市聴覚言語障害センター) | P6 「職員紹介」「お知らせ」 |
| P4 ひのきの家~外出の楽しみ (いこいの村) | |

来場者250名!
ありがとうございました

第7回
京都府

耳のことフェスタ



参加型ワークショップ

“伝わる”ってどういうこと?
AIで考えるコミュニケーション

芝垣 亮介 先生

(椋山女学園大学 外国語学部 教授)

11:45 ~ 昨年に引き続きお越し
いただき、理想のツールは誰が主
体なのか参加型ワークショップ
で考えました。

本イベントは、聞こえない聞こえにくい方やそのご家族、支援者などを対象に、最新の支援機器の紹介や、講座などを通じて、たくさんの「きこえ」について体験し交流し考えていただく機会となることを目的に開催しています。2025年12月20日(土) たくさんの体験が京都テルサに集結しました。



小児から高齢の
難聴者に寄り添う
～医療現場からのメッセージ～

講演

兵庫 美砂子 先生

(耳鼻咽喉科ひょうごクリニック 院長)

13:15 ~ 医療の立場からご本人
だけでなく家族がどう寄り添う
のか大変分かりやすくお話いた
できました。



体験



交流



相談



展示



今年の耳のことフェスタのいちおしポイントをご紹介します。

聴力測定は2カ所で実施、渋谷のソフトバンク手話カウンターとWebで繋ぎ、スマホ相談も行いました。京都市マイナンバー特設ブース、人工内耳の展示ブースなど、例年以上に大変充実したものになりました。

そして何より、きこえの相談ブースが大盛況でした。列ができ、お待たせする場面もありましたが、「まず、どこに相談したらいいかがよく分かった」「補聴器の相談ができて良かった」と、丁寧な個別相談に多くの方が喜んでくださっていました。

耳のことフェスタをきっかけに、府下の各聴言

センターが実施している「きこえの相談」や「サロン」を、より気軽に利用していただけるようになれば嬉しいです。

来場者の皆さんからは、「家族といっしょに来られて良かった」「神戸、大阪から来たよ」「受付はもっと見やすい方がいいよ」など、紹介しきれないほど多くの声をいただきました。

「来て良かったよ」と言っていただけることが、本当に励みになりました。

ご来場いただいた皆さん、そして支えてくださったスタッフの皆さん、ありがとうございました。

(情報提供施設第一部 芦田 裕子)

京都聴覚障害児放課後等デイサービス「にじ」

定員が増えました！



▲耳のことフェスタ

そこで、一人でも多くの子ども達が安心して通える場所

ご家族への思いを
市へ要望

「にじ」は2013年3月上京区の旧京都社会福祉会館内の一室で開所しました。定員10名、登録児童12名のスタートでした。
少しずつ、口コミでお子さんが増え、現在65名に至っています。
利用児童が増え、いろいろな学校の友だちと交流できる場となりましたが、定員10名を超えてしまう日が出て、利用をお断りせざるを得ない状況が続いていました。

小学生から高校生までの年齢を越えた活動を大事にしながら、年齢に合わせた活動も進めています。
10月から、土曜日や長期休暇は小学生から高校生まで全

期待に応える
プログラムへ

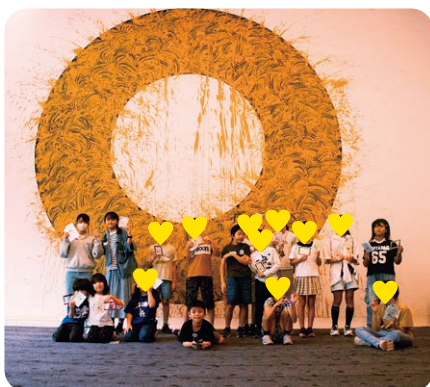
の確保を目指し、にじの定員を10名から20名増員の申請をすることとしました。あわせて保護者の皆様39家族から「もっとたくさん通える場にしてほしい」との署名が集まり、保護者の方の思いを京都市へ届けました。申請は無事に受理され、10月1日より、定員20名が実現しました。



▲本能学区「たまりBa本能」

員で取り組む時間、年齢に分かれて取り組む時間とメリハリをつけて活動をしています。
12月20日(土)には中高生は京都テルサで開催された「耳のことフェスタ」に参加。様々な情報保障機器・サービスを体験し、「高校に入学したらこのサービスを使いたい！」と具体的なイメージを持てたようです。
同日、小学生は本能学区社会福祉協議会が毎月開催するイベントに参加し、お正月飾りの工作、芝生広場でモルック体験をしました。
11月20日(土)デフラグビー体験会には小学生から高校生全員が参加。デフラグビー日本代表候補選手、NTTドコモのプロチームの選手、京都成章高校女子ラグビー部の皆さんとともに笑顔で楯円球を追いかけて、楽しみました。
現在、広範囲の送迎に対応できるよう職員体制

員で取り組む時間、年齢に分かれて取り組む時間とメリハリをつけて活動をしています。
12月20日(土)には中高生は京都テルサで開催された「耳のことフェスタ」に参加。様々な情報保障機器・サービスを体験し、「高校に入学したらこのサービスを使いたい！」と具体的なイメージを持てたようです。
同日、小学生は本能学区社会福祉協議会が毎月開催するイベントに参加し、お正月飾りの工作、芝生広場でモルック体験をしました。
11月20日(土)デフラグビー体験会には小学生から高校生全員が参加。デフラグビー日本代表候補選手、NTTドコモのプロチームの選手、京都成章高校女子ラグビー部の皆さんとともに笑顔で楯円球を追いかけて、楽しみました。
現在、広範囲の送迎に対応できるよう職員体制



▲京都国立近代美術館ワークショップ

を整え、毎日20名の子ども達が利用できるように進めています。
(地域・子ども福祉部 木瀬歩)



▲デフラグビー体験会

外に出て 季節を感じよう

梅の木寮・ひのきの家

外出の楽しみ

ひのきの家では、季節に合わせて外出を大切にしています。

2025年は、1月初詣、

3月と5月は喫茶店へ、6月バラ園、9月ドライブ、10月コスモス園、11月は紅葉狩りへ出かけました。

初詣は寒い中でも熱心にお参りをされます。喫茶では普段食事が進みにくい方も大きなケーキをぺろっと食べられます。バラ園では自分の

名前で植えられた花を確認する人もありました。外に出ることで、いつもウトウトしがちな方が「きれいやな」と目を見張っておられたり、普段とは違う笑顔がみられたりと、施設内で過ごさ

外気で 季節を感じる

外出まではいかなくても、お天気のいい日に中庭に出て、昼食やお茶会をしながらお花見や日光浴を楽しむこともあります。「まだ風が冷たいな」「今日は日差しが強いのでタオルをかぶっとくわ」と室内にいたりあまり感じられない空気を実感されています。

季節感を感じられる室内装飾にも力を入れています。暑さ寒さも含めて気候を肌で感じることは大事と考えています。

ここ数年はずっと感染症の心配が尽きませんが、気持ちよく過ごしていただくために、今後も外に出かけることを大切にしていきたいです。

(施設第一福祉部

大西洋美)

満開のコスモスと共に。一瞬の笑顔を逃さず写真におさめるのも職員の見せ所です(でも難しい！)



▲中庭でお花見ランチ



▲室内でも季節感作り(ツリーの飾り付け中。壁面には手作り紅葉も)

▲地元の神社へ初詣



▲紅葉の中でお茶会





4年目職員による体験報告

▲若年層研修（1～4年目職員）



▲課長係長研修

事業ビジョンを語り合う

当法人の職員研修は、これまで経験年数や職位に応じて実施をしてきましたが、それぞれの目標の設定とキャリア形成が不明瞭でした。

2025年度の計画策定にあたり、法人の理念と行動指針をしっかりと業務に反映できるよう、人材育成の仕組みの見える化を図りました。新規採用の職員がまず学ぶこと、経験や職位に応じて身に付けること、それら人材育成の体系に基づいた研修計画を組み立て、育成の再構築を進めます。

福祉の担い手不足は、全国的に大きな課題です。職員が学びあい、育ちあえる職場づくりを進め、人材の確保へとつなげていきます。

法人理念のさらなる追求に向けて 「事業運営の見直し」④「人材育成と研修」

法人人材育成体系＝法人キャリアパス（抜粋）

	新採職員	中堅職員	課長	管理職
「社会福祉事業が大切にすること」 社会福祉で働く人のために職員必携を理解する	倫理の基礎を理解する	倫理の理解を深め、業務内容に反映させる	担当職場内において倫理を徹底する	倫理を徹底する
「法人の理念」 わたしたちがめざすものと求められる指針	理念の基礎を理解する	理念の理解を深め、業務内容に反映させる	担当職場内において理念を指導する	理念を指導する
「自己管理と環境づくり」 セルフマネージメント自律を基礎に職場環境を考える	福祉職員としての自己管理（目標設定）ができる	後輩等に対し、知識、技術等が指導できる	課の働きやすい環境づくりの提案・実施	所属部職員の働きやすい環境づくりの実施・管理
「メンバーシップ・リーダーシップ」 「一人はみんなのために、みんなは一人のために」	組織の一員として、チームにおける自己の役割を理解する	組織、チームの一員として、効果的な業務を行う方法の工夫・提案ができる	課の目標が達成できるように業務分担を行い、部下に適切に指導できる	部の目標達成に向けて、部下を適切に指導できる
「人材の育成」 実践力をたかめる 管理能力をたかめる 社会運動の担い手の育成	研修等を受けることにより、自己研鑽に努めることができる	エルダーの役割を理解し、担うことができる	プレイングマネージャーとして業務を実践しながら、部下の指導育成を行うことができる	運営責任者として事業の目標を明示し、達成に向けて指導育成を行うことができる

後援会だより

幹事会報告

11月16日（日）に開催された幹事会において、後援会の会員拡大が難しくなっている現状について意見交換がなされました。「会費の使途がわかりにくい」「聴覚障害福祉の関係者範囲での加入にとどまっている」「高齢の会員さんから年金生活となり、会費の支払いが負担になっている」等の声が寄せられました。

これらを受け、今後の後援会の継続・発展のための改善策を検討すべきではないかとの提案がありました。改善策を提示できるよう、引き続き幹事会を中心に協議を進めてまいります。



イベントでの加入状況

各地域イベントにおいて、後援会ブースを設け新規加入の呼びかけを行いました。

●京都府聴覚言語障害センター 10周年記念イベント（2025年10月11日・土）

➡ 9名が新規加入・更新

●いこいの村まつり（2025年10月18日・土）

➡ 1団体が新規加入



職員紹介



法人事業本部
平田 幸枝 (入職10年目)

ここ最近、特にコロナ禍以降の5年は大きく時代の変化を感じました。変わることへの不安をもちつつも、働き方を変えていくべき時代。戸惑うことが多くありますが、いま自分にできることはなんだろうとよく考えます。今後も安心して笑顔で過ごせる職場環境を目指し、社会情勢を鑑みながらDX化を始め様々なことを学んでいくとともに、誠心誠意対応していきたいと思ひます。みなさま、今後よろしくお願いいたします！

京都聴覚言語障害者の
豊かな暮らしを築くネットワーク主催

第52回 耳の日記念集会

日時 2026年3月1日(日)

式典12:30～／祭典13:30～

会場 京都テルサ

祭典 若木寮和太鼓クラブ
手話エンターテインメント発信団oioi

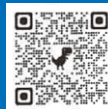
バザーや福祉機器展もあるよ！

お問合わせ

主管 第52回 耳の日記念集会実行委員会

FAX 075-841-8300

MAIL miminohi52kinen@gmail.com



ご寄付 敬称略 ご寄付ありがとうございました。

2025年10月1日～12月31日

氏名	寄付金額	物品
社会福祉法人 城陽市社会福祉協議会	5,000円	
公益社団法人 京都府聴覚障害者協会	5,000円	
京都聴覚言語障害者の豊かな暮らしを築くネットワーク (委員長 高山 正紀)	10,000円	
きょうされん 京都支部	10,000円	
社会福祉法人 京都ライトハウス (理事長 松田 一成)	5,000円	
一般社団法人 京都府聴覚障害者協会	5,000円	
京都府中途失聴・難聴者協会 (会長 西岡 保)	5,000円	
京都府手話サークル連絡会	5,000円	
京都手話通訳問題研究会	5,000円	
社会福祉法人 みんななかま	10,000円	
社会福祉法人 うめの木福祉会	10,000円	
原 智子・後閑 和夫	50,000円	資源ごみ袋 30ℓ、45ℓ 2個
土井 貢	50,000円	
米原市聴覚障害者協会 田中 光二	5,000円	
廣瀬 哲	10,000円	
仁藤 香代 (いこいの村栗の木寮 入所者のご家族)	2,211,337円	

栗の木寮に入所して仲間や職員と出会えたことに、家族として深く感謝します。

ご家族からのメッセージ

あなたの声が
聴言ニュース
を作る！
アンケートのお願い

聴言ニュース担当までお寄せください。

アンケートフォーム



法人後援会 会員の状況

(2025年9月～
2025年12月)

649名 新規ご加入 27名、継続 622名(職員含む)

目標	京都市	北部	口丹	乙訓	山城	他府県	合計
450人	450人	350人	50人	50人	100人		1,300人
会員数	196人	287人	23人	26人	57人	60人	649人
達成率	43.6%	82.0%	46.0%	52.0%	57.0%		49.9%



社会福祉法人
京都聴覚言語障害者福祉協会
法人事業本部 TEL(直通) (0774) 30-9003

京都府聴覚言語障害センター
TEL(0774) 30-9000(代) FAX(0774) 55-7708

京都市聴覚言語障害センター

TEL(075) 841-8336(代) FAX(075) 841-8311

いこいの村聴覚言語障害センター

TEL(0773) 46-0101(代) FAX(0773) 46-0610



ホームページ
はこちら

詳しくは各事業所、またはホームページで <https://www.kyoto-chogen.or.jp/>